

最終試験結果の要旨	
学位申請者 氏名	松沼 瑞樹
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 本村 浩之
	副査 鹿児島大学 准教授 寺田 竜太
	副査 琉球大学 准教授 立田 晴記
	副査 鹿児島大学 教授 野呂 忠秀
	副査 鹿児島大学 准教授 坂巻 祥孝
審査協力者	
実施年月日	平成 25 年 8 月 7 日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。) <input checked="" type="checkbox"/> 口答・筆答	
<p>主査及び副査は、平成 25 年 8 月 7 日の公開審査会において学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は申請者が博士（農学）の学位を受けるに必要な十分の学力ならびに識見を有すると認めた。</p>	

学位申請者 氏 名	松沼 瑞樹
<p>[質問1] 近縁2種の比較を行った際に、形質の値にオーバーラップがみられるが、何に基づいて2種を区別したのか？</p> <p>[回答1] 複数の形質の組み合わせで分類した。</p> <p>[質問2] 種の分類の際、特定の形質特徴で分けられるのか？</p> <p>[回答2] ミノカサゴ亜科ではそのような形質は多くない。そのため、複数の形質の組み合わせで分類する。</p> <p>[質問3] 属の系統樹作製において、Cytb遺伝子を用いた理由は？</p> <p>[回答3] 種や個体群ではなく、属の類縁関係を検証するために、進化速度が中程度のCytb遺伝子を選んだ。</p> <p>[質問4] 系統樹は他の解析方法でも構築したか？</p> <p>[回答4] 構築したが差がなかった。</p> <p>[質問5] 最適な分子進化モデルはどうやって選んだか？</p> <p>[回答5] フサカサゴ科を解析した既存論文を参考にした。</p> <p>[質問6] 形態形質をのせたクラドグラムの作製は？</p> <p>[回答6] 本研究では形態形質に基づく類縁関係の解析はしていない。</p> <p>[質問7] 既知の<i>Dendrochirus</i>属がなくなって、新属の<i>Himeyamanokami</i>が提唱された理由は？</p> <p>[回答7] <i>Himeyamanokami</i>を設立した理由は、この属の構成種に既知属のタイプ種がなかったから。<i>Dendrochirus</i>のタイプ種と<i>Pteropterus</i>のタイプ種は本研究で同属に帰属された。したがって、両属はシノニムの関係にある。両属は同一の著者により同一の著作物のなかで記載されている。したがって、国際動物命名規約にしたがい、第一校訂者として<i>Pteropterus</i>に優先権を与えた。</p>	

[質問8] これまでの研究で*B. serrulifer*は*B. serrulata*の新参シノニムとされてきたが、本研究で有効とした根拠は？

[回答8] *B. serrulifer*のタイプ標本を調査した結果、本研究で認めた広域分布種と同種であった。また、原記載から判断して、*B. serrulata*とも別種であることが分かった。したがって、*B. serrulifer*は有効種であると判断した。

[質問9] 胸鰭鰭条が不分枝という形質はミノカサゴ亜科において別の系統で独立して生じたという話だが、形態形質にもとづいて*B. serrulifer*と*B. serrulata*が近縁であると結論付けるのは矛盾しないか？

[回答9] これまでの研究では、胸鰭鰭条が不分枝という1形質のみに基づいた近縁性が論じられていたが、*B. serrulifer*と*B. serrulata*の近縁性は複数の特異的な形質を共有することに基づいており矛盾しない。

[質問10] オーストラリア北東部沿岸と北西太平洋では、別種が多いのか、共通種が多いのか、一般論は？

[回答10] 分類群によって異なる。しかし、オーストラリア北東部に固有の種は比較的多い。